

# 地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドライン

平成 28 年度～30 年度厚生労働科学研究費補助金

(健康安全・危機管理対策総合研究事業)

「地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発」

## 研究組織（所属は2019年3月時点）

### 〈研究代表者〉

麻原きよみ（聖路加国際大学大学院看護学研究科・教授）

### 〈分担研究者〉

佐伯 和子（前北海道大学大学院保健科学研究所・教授）[2017年度まで]

大森 純子（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻・教授）

永田 智子（慶応義塾大学看護医療学部・教授）

### 〈研究協力者〉

#### ① 公衆衛生看護研究者

嶋津多恵子（国立看護大学校・教授）

梅田 麻希（兵庫県立大学地域ケア開発研究所・教授）

小林 真朝（聖路加国際大学大学院看護学研究科・准教授）

三森 寧子（聖路加国際大学大学院看護学研究科・准教授）

米倉 佑貴（聖路加国際大学大学院看護学研究科・助教）[2017年度から]

川崎 千恵（国立保健医療科学院・主任研究官）

永井 智子（聖路加国際大学大学院看護学研究科・助教）

江川 優子（聖路加国際大学大学院看護学研究科・助教）

遠藤 直子（国立看護大学校・助教）

稲垣 晃子（聖路加国際大学大学院・臨時助教）[2017年度まで]

渡辺 真弓（聖路加国際大学大学院・臨時助教）[2017年度まで]

#### ② 地域開発に関わる他分野専門家

鵜飼 修（滋賀県立大学全学共通教育推進機構・准教授）

#### ③ 実践者（管理的立場の保健師）

小西美香子（横浜市総務局人事部職員健康課・課長）

佐川きよみ（葛飾区健康部保健予防課感染症対策係・係長）

須藤 裕子（小鹿野町保健福祉センター保健福祉課・主査）

# 地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドライン

## 目次

I. はじめに	
1. 背景.....	1
2. 地域特性に応じた健康な地域づくり活動をめざす.....	1
II. 用語の定義.....	2
III. ガイドラインの活用方法	
1. 対象集団・利用者.....	3
2. 活用方法.....	3
IV. 地域/地区活動	
1. 地域/地区活動のポイント.....	4
2. 地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識.....	5
3. 地域/地区活動に使えるツール.....	5
1) 地域/地区カルテとは.....	5
2) 地域/地区カルテ共有による活用.....	7
3) 地域/地区カルテを活用するには.....	7
4. 地域特性のアセスメント	
1) 地域/地区カルテ【フェイスシート】とは何か.....	9
2) 【フェイスシート】の8項目.....	10
5. 日々の活動.....	12
1) 地域/地区カルテ【日々の記録】.....	12
2) 地域/地区カルテ【サマリーシート】.....	12
6. 地域/地区活動を促進する環境づくり～統括保健師の方へ～.....	14
V. おわりに ～保健師の皆さまへ～.....	15
参考 「気づき」から始まる地域/地区診断.....	16
コラム ワークショップを用いた健康まちづくりの一事例.....	17

気づきから始まる地域/地区診断の標準的なプロセス

地域/地区カルテ

地域/地区カルテ 活用マニュアル

表 1 用語の定義

表 2 地域/地区活動のポイント

表 3 地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識

表 4 地域/地区活動を促進する環境づくり

図 1 地域/地区カルテの構成

図 2 地域/地区カルテ 各ステップの目的

図 3 地域/地区カルテ活用のタイミングのイメージ

図 4 【フェイスシート】活用の流れ

# I. はじめに

## 1. 背景

情報化とグローバル化の急速な進展に伴い、社会経済的情勢は日々変化しています。人々の価値観や家族のあり方も多様化し、社会の健康課題や人々のニーズも多様化・複雑化しており、それに伴い社会制度も変化しています。人々の生活を護り、人々と地域全体の健康を保持増進し、人々の幸せな暮らしをめざす保健師の活動の重要性はますます高まっています。

一方で、わが国の社会保障分野は地域包括ケアシステム構築をめざしており、地域保健分野においてもその方向性は「健康な地域づくり」にあります。2013（平成 25）年「地域における保健師の保健活動について（平成 25 年 4 月 9 日付け健発 0419 第 1 号）」が出され、「地域における保健師の保健活動に関する指針」の中で、地域特性に応じた健康な地域づくり推進の方向性とそのための地区活動の推進が示されました。

本ガイドラインは、「地域における保健師の保健活動に関する指針」を実用化するために、2016～2018（平成 28～30）年度の厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）によって行われた「地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発」の研究結果に基づいて作成されています。「地域全体に焦点を当てた地域づくり」を実用化するための方法やツールを盛り込んでいます。健康な地域づくりのための日々の活動にご活用ください。

## 2. 地域特性に応じた健康な地域づくり活動をめざす

保健師の活動は、所属する自治体の住民が対象となります。保健師は、それらの人々を個別に支援することはもちろんですが、自治体を構成する地区住民や、自治体の母子や高齢者といった特定集団を対象として事業を行います。それは、保健師が地域住民全体の健康増進をめざしているからであり、そこに保健師の活動の特徴があります。

そこでこのガイドラインでは、地区全体を対象とする場合も自治体の母子や高齢者といった特定集団を対象とする場合も、つまり「地区担当制」であっても「業務分担制」であっても、地域を意識し、「地域の人々の暮らしや健康を守り、人々が望む生活を目指して行われる活動」は、保健師の「地域づくり」としました。その活動には、地域の人々や関係者/機関との協働、ネットワークづくりやケアシステムの構築が含まれ、地域全体をとらえる視点や日頃の活動を地域全体に結びつけて考える視点がとても大切になります。

このガイドラインでは、「地域特性に応じた保健活動」を「健康な地域づくり」とし、「地域/地区活動」と表現しました。そして、健康な地域づくりを行うための具体的な指標や方法を示しました。「地域全体をとらえるにはどうしたらいいの?」「日々の活動を地域全体の課題や地域づくりに結びつけてとらえるにはどうしたらいいのか?」「保健師の地域づくりとはどのような活動なのか?」などについて、保健師の皆さんが理解し、日々の活動につながることに、このガイドラインが役立つことを期待しています。

## II. 用語の定義

「地域における保健師の保健活動に関する指針」における主要な用語を以下の通り、定義しました。保健師間・多職種との共通理解のもとで日々の活動や会議等で活用してください。

表 1 用語の定義

用語	定義
地区	地域を構成する空間の範囲であり、人々の日常生活の基盤となる区域。保健師の地区活動においては、保健活動を展開する範囲を示す。
地域	地理的境界をもつ空間の範囲である。そこで生活あるいは活動する人々は、多くの場合、共通する文化的特徴をもち、社会基盤や社会資源を共有する。
地域特性	一定の境界を有する生活圏を特徴づける自然条件、社会条件、および、そこで生活する人々が共有する文化に基づいた意識や行動。
まちづくり/ 地域づくり	地域の人々の暮らしや健康を守り、人々が望む生活を目指して行われる諸活動であり、そのプロセス。地域に生活する人々、行政、民間団体等が協働すること、地域への愛着や関心、強みを育むことを通して推進される。
地区活動 (保健師による地区活動)	訪問指導、健康相談、健康教育及び地区組織の育成等を通じて地区を把握し、住民が主体的かつ継続的に健康的な生活を送れるよう地域住民や関係機関等と協働して行う保健活動。
地区担当制	一定の地区に責任をもち、その地区で生活するすべての人々の健康や生活の質の向上のために活動を行う体制
業務担当制	母子・成人・高齢者・精神・感染症等の分野ごとに責任をもち、その分野の対象とする人々の健康や生活の質の向上のために活動を行う体制。
地域ケアシステム	住民がその地域で生活を継続するために必要な、様々なサービスを一体的、継続的に提供する仕組みとその機能。保健、医療、福祉等のフォーマルなサービスだけでなく、住民組織などによるインフォーマルなサービスも含む。
地域ケアシステムの構築	関係機関や地域住民と協働してサービスや社会資源の調整および開発を行い、地域ケアシステムの仕組みを作ったり、その仕組みを効果的に機能させたりすること。
地域診断	保健活動、地区踏査、調査研究、統計情報等に基づいて、住民の健康状態や生活実態を把握して、地域において取り組むべき課題、その構成要素と要因を明らかにすること。
健康課題	健康や生活の質の向上を目指す上で取り組むべき事柄。顕在的あるいは潜在的なことも含む。
政策	政府や自治体の取り組むべき課題と解決のための基本方針を表明したもの。政策-施策-事業の構造をもつ。
施策	政策課題を解決するための方針や対策を示したもの。
施策化	政策課題を解決するための計画、実施、評価の過程。
事業	施策を実現するために、計画に基づいて行われる具体的な保健活動。
事業化	施策を実現するための具体的な活動を計画、実施、評価する過程。
保健活動	人々の健康や生活の質の向上のために行われる諸活動。保健サービス、保健事業を含む包括的な用語。
保健サービス	人々の健康や生活の質の向上のために、組織的に行われる知識・技術の提供。 注) 保健活動と同義語として使われることがある
保健事業	施策を実現するために、計画に基づいて行われる具体的な保健活動。
PDCA サイクル	活動の目標と計画を設定する Plan、計画を実施する Do、活動を評価する Check、評価結果に基づいて計画の見直しや改善を行う Act の 4 段階で構成される循環過程。業務を継続的に改善するための管理の手法のこと。
ソーシャル キャピタル	人々のつながりや関係性を資源と捉える概念。集団としての結束や協調性もたらし、健康と生活の質を高める基盤となる。
統括的な役割を担う保健師	地域特性に合わせた様々な活動を効果的に推進するために、保健師による保健活動の組織横断的な調整や、計画的な保健師の人材確保・人材育成等における指導・調整を担う保健師。 注) 保健師の保健活動の総合的調整等を担う部署に配置することが望ましいとされる。
保健師人材育成	保健活動の質の保証のために専門職として必要な能力を備えた保健師を、基礎教育から継続的かつ組織的に育てること。

### Ⅲ. ガイドラインの活用方法

#### 1. 対象集団・利用者

このガイドラインの対象は、自治体の保健師を中心とした保健活動に携わる皆さん、教育活動に携わる皆さんです。

地区担当制であれば受け持ち地区全体、業務分担制や福祉、介護、地域包括支援センターなどの配属であっても、業務の対象となる自治体や担当地区全体の母子や高齢者などを「地域」ととらえ、地域/地区活動をすることができます。また、保健師の地域/地区活動を促進する環境のあり方についても提案していますので、統括的立場の保健師や管理的な立場の保健師の皆さんもご活用ください。

#### 2. 活用方法

##### ◆日々の保健師の活動に活用する

地域アセスメントの方法や地域/地区カルテなどのツールを日々の活動で使ってみてください。自治体によっては自治体独自の地域アセスメントや日々の記録、評価シートなどがあると思います。ガイドラインで紹介している方法やツールの中で、日々の活動に使えるような一部分を取り入れて使ってもよいでしょう。

##### ◆保健師自身の活動の振り返りや改善に活用する

地域/地区活動について理解を深めたり、自分の活動を振り返り、改善するために活用してください。

##### ◆保健師の地域/地区活動を促進する環境づくりのために活用する

主に統括的立場や管理的立場の保健師の皆さんが、保健師の地域/地区活動を促進するために、仕事・職場環境を見直し、改善する際のポイントとして活用してください。

#### <使用上の注意>

ガイドラインに記載された方法やツールは、活用されることがもっとも重要です。ガイドラインに記載されたとおり厳密に使用する必要はありませんので、保健師の皆さんが使いやすいように日々の活動に取り入れてご活用ください。

ガイドラインの内容に関する詳細は、2018（平成30）年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「地域特性に応じた保健活動推進のためのガイドラインの開発研究報告書」を参照してください。

#### IV. 地域/地区活動

ここでは、地域/地区活動のポイントや、地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識について紹介します。チェックリスト形式ですので、ご自身の活動の振り返りや保健活動の参考にしてください。

##### 1. 地域/地区活動のポイント

地域/地区に出向くことはもちろんですが、所内での電話対応や事務を通して、地域/地区活動を行うことができます。

##### ◆【住民とのつながりを求める活動】該当番号1～3

意識して地域/地区に出向くこと、住民の声を聞く努力をしながら情報を得ていきましょう。

##### ◆【地域/地区の特性を考えた活動】該当番号4～5

地域/地区の特性である、暮らし、文化、風習、自然環境、地域資源などを考えながら活動しましょう。

##### ◆【地域/地区という単位を意識した活動】該当番号6～9

地域/地区を単位としてとらえ、個別支援を地域/地区活動に発展させることが重要です。地域/地区診断を行い、課題や活動方法を検討しながら、地域/地区の現在だけでなく、将来の姿を見据えて活動することが必要です。また、住民に対して保健師の存在や活動を知らせていく努力が求められています。

表2 地域/地区活動のポイント

【住民とのつながりを求める活動】	
1	地域/地区に出向くことを意識して行っている
2	住民の声を聞く努力をしている
3	住民から地域/地区の情報を得ている
【地域/地区の特性を考えた活動】	
4	地域/地区の特性（暮らし、文化、風習）を考えて活動している
5	地域/地区の特性（自然環境、地域資源）を考えて活動している
【地域/地区という単位を意識した活動】	
6	個人への支援を地域/地区活動に発展させている
7	地域/地区の将来の姿を考えて活動している
8	地域/地区診断に基づいて、重点課題や活動方法の検討を行っている
9	保健師の存在や活動を地域/地区の住民に対して知らせる努力をしている

## 2. 地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識

地域/地区活動は、保健師の保健師としての充実感、地域/住民への愛着、地域/住民との一体感等への効果をもたらすと考えられます。

表3 地域/地区活動による保健師自身および地域/住民への認識

【保健師としての充実感】	
1	私は保健師の活動が楽しい
2	私は保健師の仕事から達成感を得られる
3	私は保健師の仕事に満足している
【地域/住民への愛着】	
4	私は地域/地区への愛着がある
5	私は地域/地区の住民に対して何ができるか、常に考えている
6	私は住民とつながることができてうれしい
【地域/住民との一体感】	
7	私は住民から頼りにされる
8	私は住民と相談し合える関係である
9	私はいつでも住民とともにある存在である
10	地域/地区の住民の間につながりができていると思う

## 3. 地域/地区活動に使えるツール

### 1) 地域/地区カルテとは

日頃の保健活動を地域/地区と結び付け、他にはない対象とその地域/地区の特性をつかみ、地域/地区を意識ながら活動することが自然とできるようになることを目指します。

- ◆ 地域/地区を診る視点を養い、地域/地区をつかむ
- ◆ 日々の活動を地域/地区と結び付けて考えることができる
- ◆ アセスメント、計画、実施、評価、改善のプロセスを動かしていくことができる

地域/地区カルテは地域/地区担当者から地域/地区担当者へと経年的に引き継がれることを想定しており、地域/地区カルテを活用することにより、これまで1人1人の保健師が蓄積していた地域/地区のデータと地域/地区活動についての情報を共有し、より効果的な「地域特性に応じた保健活動」を展開できるようになることが期待されます。地域/地区カルテは、以下の3つのシートで構成されます。(項目の詳細については、付録の「地域/地区カルテ」を参照のこと)

### ① フェイスシート

担当地域/地区の概要を大掴みに理解するためのシートです。地域/地区の成り立ち、自然環境と位置、住民の構成、健康状態とくらし、文化と社会関係、主要人物・組織資源、主要健康関連資源など8項目から成ります。

### ② 日々の記録

地域/地区活動の中での気づきを積み重ねるためのシートです。担当地域/地区に居住する「住民の暮らし」の視点から、地域/地区の現状を把握します。地域/地区活動（訪問指導、健康相談、健康教育、地域/地区組織の育成等を含む）から地域/地区に関して気づいたことを書き留め、重要だと思う内容はフェイスシートに反映させます。また、気づきに対して「考えたこと」「行ったこと」を記載します。

### ③ サマリーシート

地域/地区の強み・弱みを捉え、健康課題を抽出し実現可能性を考えながら優先順位を決定し、地域/地区活動の実施・評価の具体的な計画を立てるためのシートです。フェイスシートと日々の記録から地域/地区の強みと弱みを整理し、地域/地区の課題を抽出し、実現可能性に照らして優先順位を決定します。年度内の活動計画を立て実践し、活動した内容を評価し、さらに次年度の計画を立案します。

地域/地区カルテのフォーマットは Word ファイルおよび Excel ファイルの 2 種類を作成しました。



図 1 地域/地区カルテの構成

## 2) 地域/地区カルテ共有による活用

地域/地区カルテを共有することで以下の通りの活用ができます。

### (1) アセスメントを共有する目的

保健師間や他部署との共有により、それぞれの保健師が自身の視点を確認できます。また、共有・ディスカッション・助言のプロセスから新たな「気づき」を生み出すことも可能です。

- ◆日々の活動の中での気づきや疑問を、主・副担当保健師、またはエリアの近い保健師間で共有しましょう。
- ◆管理者も含めて、保健師間や他部署などと定期的な共有の場を持ちましょう。

### (2) 活動の成果を形にして伝える

地域/地区カルテは、地域/地区を歩き、または電話や面接を通して、そこに生活する住民と直接かかわるといふ保健師の「気づき」から作り出されます。数字として示すことが難しい保健師活動の成果を形にするものです。地域/地区と住民に関する知識や情報を保健師間、他部署、他機関、住民と共有することができます。それぞれの自治体の必要に応じて以下のような活用方法が考えられます。

- ◆保健師活動の年次報告として
- ◆地域/地区担当交代時の引き継ぎ資料として
- ◆他部署・他機関、住民と連携する際の基礎資料として
- ◆保健師間での情報共有のツールとして

### 3) 地域/地区カルテを活用するには

地域/地区カルテ活用の目的と各シートの作成目的および作成方法の理解のため、地域/地区カルテ活用マニュアルおよび E-learning 教材（所要時間 21 分）を作成しました。

地域/地区カルテ活用マニュアルおよび E-learning では、3 種類のシートそれぞれについて、3 ステップとして解説し、各ステップの目的を達成するための記載方法と情報整理のための視点を示しています。

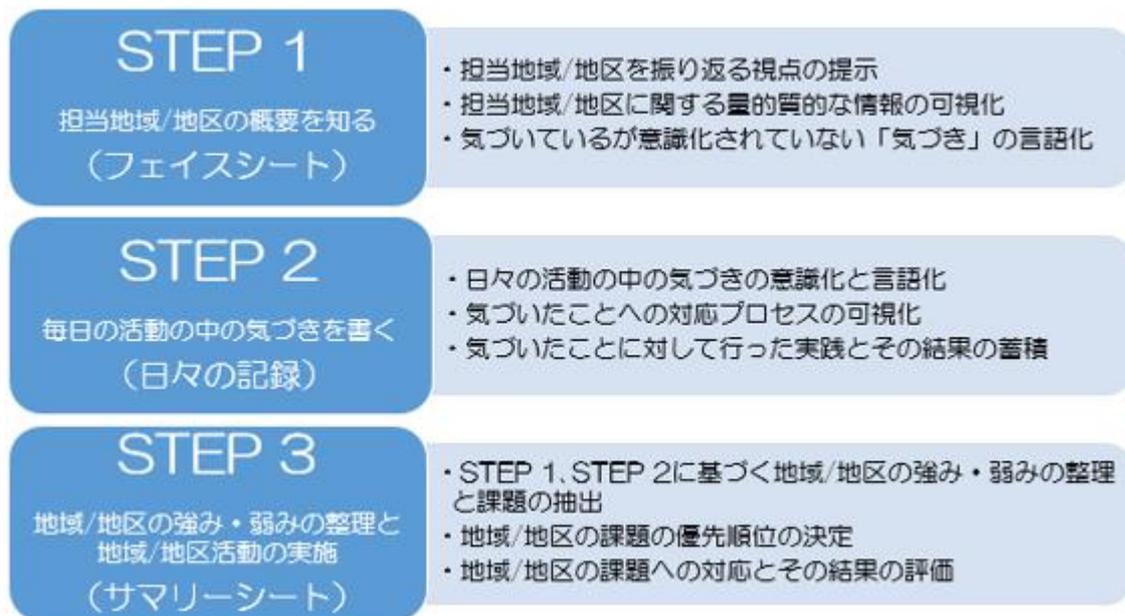


図2 地域/地区カルテ 各ステップの目的

また、単年度を単位とした保健活動の中で、どのように地域/地区カルテを使用していけばよいでしょうか。効果的なタイミングで活用できるよう、それぞれの自治体の保健活動の状況に応じて、下記のような年間スケジュールを参考に使用することができます。



図3 地域/地区カルテ活用のタイミングのイメージ

#### 4. 地域特性のアセスメント

##### 1) 地域/地区カルテ【フェイスシート】とは何か

地域/地区カルテの【フェイスシート】では、系統的に地域の情報を得て、早期に地区全体の概要を捉えるために、8つの項目を取り挙げています。8つの項目には、「1. 地域/地区の成り立ち」「2. 地理的特徴」「3. 住民の構成」「4. 健康状態と暮らし」「5. 文化と社会関係」「6. 地域/地区内の主要な人的・組織資源」「7. 地域/地区の人が活用する主要な健康関連資源」「8. その他」があります。これらの8つの項目を眺めて地域/地区を振り返り、まず書けるところから書いてみることから始めます。これまで公表されている地域/地区診断の方法は、地理・環境、交通、産業・経済、保健統計などの情報をすべて収集し、多角的かつ網羅的に地域/地区を診る場合がほとんどです。ですが、日常的に実践で用いることは困難で、実用的ではないことから、この【フェイスシート】では8つの項目について、地域/地区活動を通して得られた経験データを含めて記載・蓄積し、地域/地区担当者から地域/地区担当者へ、経年的に引き継ぐことを想定しています。

The image shows a sample 'フェイスシート' (Face Sheet) form. At the top, there is a blue header with the title 'フェイスシート'. Below the header, the form is divided into several sections:

- 1. 成り立ち** (Origin): A section for recording the history and background of the community/region.
- 2. 地理的特徴** (Geographical Features): A section with multiple boxes for recording geographical information such as location, area, and surrounding environment.
- 3. 住民の構成** (Resident Composition): A section containing several tables for recording demographic data like population, age distribution, and gender.

The form also includes various other fields for recording specific details and statistics related to the community/region.

保健師の実践では、個のかかわりや、その他教室や健康診査などの保健活動において、健康課題に関わる「気づき」を得て、そこから地域/地区診断を始めるのが現実的です。この【フェイスシート】では、日頃の保健活動を通して気づいたその地域/地区の特徴を、気づいたときに随時記録し、実践を通じた「気づき」や情報を蓄積していくことになります。「気づき」から始めて、次第に地域/地区の特性や課題を焦点化して、それらを明確化していくものです。そのため、一度に全ての項目を埋めなければならないということではありません。

個々の保健師の「気づき」や、これまで蓄積していた経験知（経験に基づく知識）を、【フェイスシート】に書いて「見える化」することで、他の地域/地区の担当者や、後任の保健師などと共有することができます。また、ベテランの保健師が書いた【フェイスシート】を共有することで、地域/地区の見方や視点がわからない新人保健師の学びにもつながると考えられます。こうして蓄積した「気づき」や情報は、個のかかわり・地域/地区活動をより効果的に展開するうえで役立つほか、保健計画の策定や事業化を行う際の貴重な資料となります。

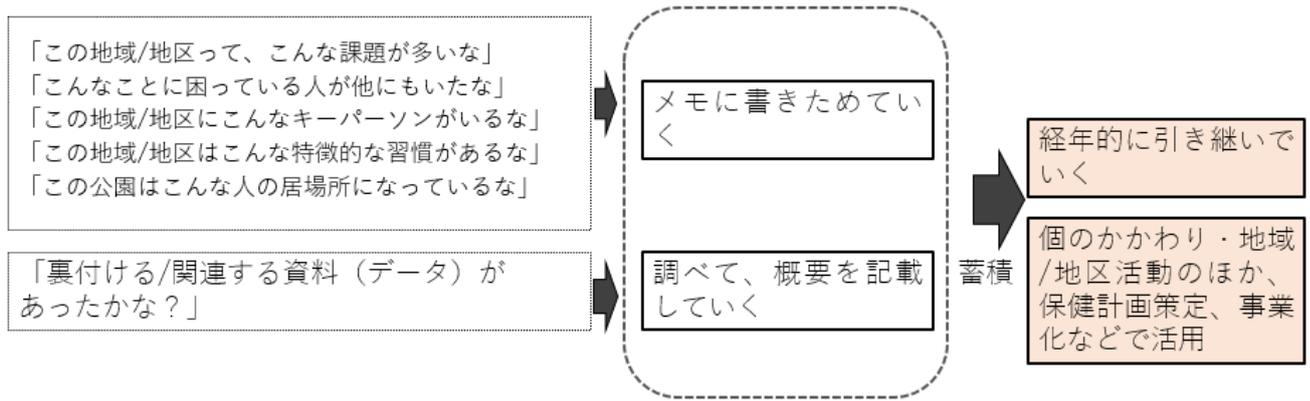


図4 【フェイスシート】活用の流れ

## 2) 【フェイスシート】の8項目

【フェイスシート】に記載する内容について、簡単に説明します。記載する時は、単語や箇条書で構いません。【フェイスシート】に書くことで、担当地域/地区の特性（特徴・強み・弱み）を明らかにします。

※付録「地域/地区カルテ」と「地域/地区カルテ活用マニュアル」参照。

### 地域/地区の目標/理念

担当地域/地区がこれからどのようなようになってほしいか、「地域/地区がこんな風だといいな」のように、地域/地区の姿を思い浮かべたうえで、下の例のような目標/理念を言葉にしてみましょう。自分の主観や住民と共有しているもの、住民が描いているものなど、その地域/地区のビジョン（将来像）に関することとなります。

例) 「子ども、高齢者、障害者など誰もが集える場ができ、人々がつながる」

「子育て世代と高齢者、単身者などが顔見知りになり、手助けし合える」

「病気や障害があっても、暮らし続けることができる」

#### ① 成り立ち

担当地域/地区は歴史的に、どのようにして発展してきたか。いつ頃人が増え、どのような産業が興っていったか。そして、今後どのようになっていくと考えられるかなどを記載します。

#### ② 地理的特徴

担当地域/地区の面積（他の地域/地区と比べてどうか、地域/地区の資源はどこにあるか）、主要産業・基幹産業、自然・地理・気候（特徴）などを概観して、概要を記載します。

#### ③ 住民の構成

担当地域/地区にどのくらいの人が住んでいるか、地域/地区の人口はどのように変化しているか・今後どのように変化すると考えられるか、同じく世帯はどうかなどを記載します。国勢調査や住民基本台帳などから把握します。10年前の地域/地区の状況がわかれば、併せて記入します。

#### ④ 健康状態と暮らし

担当地域/地区に暮らす人々の健康状態と暮らし向きについて記載します。【フェイスシート】に例示していますが、他の指標でも構いません。その地域/地区に特徴的な項目、他の地域/地区と少し異なる項目などを取り出して記載します。同じ指標について、自治体全体の数値も記載し、比較できるとよいでしょう。10年前の地域/地区の状況がわかれば、併せて記入するとよいでしょう。

#### ⑤ 文化と社会関係

担当地域/地区に暮らす人々の文化/価値観や規範（～ねばならない）のほか、どのような人間関係の中で暮らしているか（社会関係）を記載します。根拠となる資料はなくても構いません。感じ取ったことを記載しましょう。中には、健康を増進する要因や阻害する要因などが見つかるかもしれません。

#### ⑥ 地域/地区内の主要な人的・組織資源

担当地域/地区内の人的・組織資源を明らかにします。個へのかかわりや地域/地区活動を行ううえで、資料となります。関連図は、地域/地区の資源全ての関係（つながり）を書く必要はありません。この地域/地区で大事な組織・機関・人などのつながりや、この地域/地区に特徴的なつながりを関連図として記載しましょう。関連図を書くことによって、大切な組織・機関・人とのつながりを明確にします。今後つながるとよい、つながるとよい人や組織、機関などが明確になります。

#### ⑦ 地域/地区の人が活用する主要な健康関連資源

担当地域/地区の人々が活用する資源のうち、主要な健康関連資源（医療機関、施設など）について記載しましょう。

#### ⑧ その他

①～⑦に当てはめることが難しいものや、担当地域/地区の人々が重要と考えている地域/地区の特性、保健師として自分が地域/地区にとって重要と考えることなどを記載します。

日々の個々の活動を地域/地区と結び付けて考えることで、地域/地区を意識した気づきを得ることができるようになります。地域/地区に関する気づきから、地域/地区診断を行っていく方法があります

**⇒参考 気づきからはじまる地域/地区診断**

## 5. 日々の活動

保健師は、日々の地域/地区活動のなかで、担当地域/地区の様々な情報を把握し、健康課題の解決に向けて地域/地区活動の方略を判断して住民と関わっています。けれども、そのような思考過程は必ずしも可視化されているわけではありません。そこで、保健師の日々の地域/地区活動で実施したことや考えたことを、まずは簡略に書き留めるツールとして【日々の記録】を使ってください。そこから浮かび上がった地域/地区に関するポイントとなる情報はフェイスシートに追記していきましょう。そして、日々の地域/地区活動や気づきを蓄積した【日々の記録】を【フェイスシート】とともに振り返り、【サマリーシート】に整理します。【サマリーシート】を、組織メンバーと互いに共有し、地域/地区全体の健康課題と関連づけて考えることで、より効果的な方策が見いだされることでしょう。さらに、地域/地区担当者から地域/地区担当者へと、経年的に引き継がれることで、これまで個々の保健師が蓄積していた、地域のデータと地域/地区活動についての情報を共有し、より効果的な「地域特性に応じた保健活動」を展開することが期待できます。

### 1) 地域/地区カルテ【日々の記録】

地域/地区活動の中での気づきを積み重ねるためのシートです。担当地域/地区に居住する「住民の暮らし」の視点から地域/地区の現状を把握しましょう。家庭訪問や健康教育などの地域/地区活動からも、個別の健康課題だけでなく、地域/地区の健康課題にも気づき、関わることもあることでしょう。また、関係機関連絡や、他部署との会議なども地域/地区の情報を得てネットワークをつくる機会となるでしょう。そのような、様々な地域/地区活動から地域/地区に関して気づいたことを書き留め、重要だと思う内容はフェイスシートに反映させ整理しましょう。また、気づきに対して「考えたこと」「行ったこと」を記載することで活動記録として残していきましょう。

**日々の記録**

日々の記録：地域/地区に関する気づき・地域/地区の課題に対する実践（記入例）			
(日付)	#課題番号	実施したこと	地域/地区に関する気づき・実践の結果
A月X日	(課題に 学がって いる場合 に記入)	家庭訪問	例： 地域/地区に関する気づき：(家庭訪問)を通して ・相談できるひとがない(相談内容) 地域/地区情報の参照 → 子育て相談の場は？ → 近くの保育所で子育て相談を実施している → 相談件数・相談内容は？ → 関連データ確認・フェイスシート追記

### 2) 地域/地区カルテ【サマリーシート】

地域/地区の強み・弱みを捉え、健康課題を抽出し実現可能性を考えながら優先順位を決定し、地域/地区活動の実施・評価の具体的な計画を立てるためのシートです。フェイスシートと日々の記録から地域/地区の強みと弱みを整理し、地域/地区の課題を抽出し、実現可能性に照らして優先順位を決定します。そして、年度内の活動計画を立て実践し、活動した内容を評価します。それらに基づき次年度の計画を立案していきましょう。

「地域/地区の目標・理念」には、フェイスシートで記載した地域/地区の目標・理念を改めて書いてみましょう。「自治体の理念・将来像」は、各自治体で掲げられているものを記載し、方向性の確認をします。

「要約(アセスメント)」は、フェイスシートと日々の記録を振り返り、地域/地区の強み、弱みの視点から課題を整理して記載します。課題には、頻度の多い問題、類似性・関連性のある問題、重要な問題などが含まれます。「地域/地区の人々が活用する健康関連資源や環境」は、フェイスシート・日々の記録から抽出します。地域/地区活動に協力が得られそうな地域/地区組織・関係機関・キーパーソンについて、記載します。但し、相談できること・できないこと、人柄なども書き留めておく役立ちます。

人々の価値観・交流、集える場、地理的環境、交通の利便性は、その地域/地区の人々の大切に行っていることや交流の仕方、地理的環境などを記載することで、方策に活かすことができます。

「課題」には、地域/地区の人々を主体として、「地域/地区の目標や理念」に照らし、どのような解決すべき課題があるか明記します。「課題の位置づけ：国や自治体の政策・動向をみてみよう」では、課題に挙げた事柄と関連している各種計画、首長の施政方針、法的根拠、国の施策などを記載します。課題の重要度、優先度の判断や戦略に生かすことができます。国や自治体の政策や動向に照らして書ける範囲で書いてみましょう。

「短期目標」は、「課題」に挙げた事柄と「地域/地区の目標や理念」に照らし、一年後の地域の人々の目指す姿を記載しましょう。

「今年度の計画」には、1年間の短期目標を達成するための対応策について、目標達成に向けた戦略、地域/地区の強みを生かした対策、健康課題への対応を考える視点で記載します。

「評価指標、評価時期(地域/地区のレベル)」は、「課題」の解決に向けた計画が、どの程度実施し進められたか、その結果、課題はどの程度改善したか振り返るための、評価の物差しとなる指標と、評価の時期を設定しておきます。この評価の方法までを計画策定時に設定しておきましょう。

地域/地区活動の成果として、目標がどの程度達成できたか、課題はどの程度改善されたかを評価することは必要です。しかし、成果(アウトカム)となる指標は、課題によって、毎年測ることや、担当地域/地区ごとに測ることが難しい場合もあるでしょう。健診データの分析結果や出生率、

**サマリーシート**

サマリーシート：地域/地区の強み・弱みの整理と地域/地区活動の実施

〔 〕地域/地区 担当 〔 〕 年 月 日

地域/地区の目標・理念(フェイスシートより)	自治体の理念・将来像
	(各自自治体で掲げられているもの)
要約(アセスメント)	地域/地区の人々が活用する健康関連資源や環境(フェイスシート・日々の記録から抽出)
頻度の多い問題、類似性・関連性のある問題、重要な問題などをフェイスシートや日々の記録から抽出	地域/地区組織・関係機関・キーパーソン(相談できること・できないこと、人柄など)
	人々の価値観・交流、集える場
	地理的環境、交通の利便性
	その他
課題	課題の位置づけ： 国や自治体の政策・動向をみてみよう 各種計画、首長の施政方針、法的根拠、国の施策など(課題の重要度、優先度の判断や戦略に生かせる)

死亡率などの保健統計のように、年単位であれば把握できるものもあります。課題によっては、数年に一度の市民調査などで成果（アウトカム）を評価するものもあるでしょう。そして、3か月、6か月、1年ごとの評価では、何がどの程度進んだか、実施できたか、というプロセスを評価することが中心となるでしょう。プロセスの評価には、住民や関係機関の人々との協働や住民主体の取り組みがどの程度なされてきたか、つまりパートナーシップの評価も地域づくりでは重要な要素となります。

そこで、地域/地区カルテでは、評価の枠組みを「実施したこと」と「改善したこと」の2つの視点で、地域/地区単位の活動に即した評価ができるようにしています。

「実施したこと」には、たとえば、キーパーソンを把握し、話し合う機会がもてたか、健康課題や将来像を共有できたか、協働した取り組みへの発展があったかなどが記載できます。

「改善したこと」には、たとえば、集う場の利用者数や、利用した人々の変化、人々のネットワークの変化など、地域/地区活動における地域づくりならではのプロセス評価を記載できます。その成果として、年毎、数年毎に把握できる、育児に不安をもつ人の割合、活動の場をもつ障がい者の割合などの評価指標も設定できます。

「結果」には、設定していた評価時期に、評価指標について、その結果を記入します。

「次年度の健康課題」には、年度末に評価結果を振り返り、次年度に向けた健康課題を明確化して記載します。

## 地域づくりの1つの方法として、ワークショップの形式で行う方法もあります

### ⇒コラム ワークショップを用いた健康まちづくりの一事例

## 6. 地域/地区活動を促進する環境づくり～統括保健師の方へ～

今回の調査により、「地区担当制」「業務分担制」に関わらず、地域づくりを行っている保健師は、保健師であるというアイデンティティを持っていることがわかりました。このことは、地域づくりを行うことが、保健師の能力を培うことにつながっていると考えられます。また、地域/地区に関する情報共有の機会があることが、地域づくりと関連があることが示されました。

地域/地区活動は、保健活動の要です。地域/地区に出向くことができる環境であることが望ましいですが、組織の方針が明確であること、地域/地区に関する十分な情報共有の機会の地域/地区活動ができる環境が大切です。

## 地域/地区活動を促進する環境づくり

### ◆【組織の方針の明確さ】該当番号1～3

自治体全体や管理的の立場にある者が明確な方針・考えがあることが、保健師個人の活動にも影響します。

◆【地域/地区に関する情報共有の機会の確保】該当番号4～8

地域/地区の課題を保健師間、他職種、関係機関と共有する機会があり、十分な情報共有が行われる体制が必要です。個々の保健師が行った活動をそのままにせず、話し合う機会、見直す機会をもつことが重要です。統括保健師は、個々の保健師の活動や経験を意味づけていく役割が期待されます。

表4 地域/地区活動を促進する環境づくり

【組織の方針の明確さ】	
1	所属する自治体全体として、保健活動と連携する地域/地区づくりの方針・体制がある
2	上司や統括的立場にある保健師に、保健活動についての明確な考えがある
3	保健師が、地域/地区を集団と捉えて保健活動を行うための研修を受ける機会がある
【地域/地区に関する情報共有の機会の確保】	
4	保健師が、地域/地区の課題を他の保健師と共有する機会がある
5	保健師が、地域/地区の課題を他職種や関係機関と共有する機会がある
6	地区活動担当者の情報共有・相談の場として定期的なミーティングがある
7	日常的に保健師相互の情報共有・相談支援の機会がある
8	保健師の地域/地区活動について、地域住民に対して広報、知らせる機会がある

V. おわりに ～保健師の皆さまへ～

多様化する健康課題の解決に向けて、ますます保健師の活動の場が広がっています。地域で暮らす人々の健康及び安寧の実現は、保健師の活動にかかっています。本ガイドラインが、保健師の皆さまのよりよい活動の一助になれば幸いです。

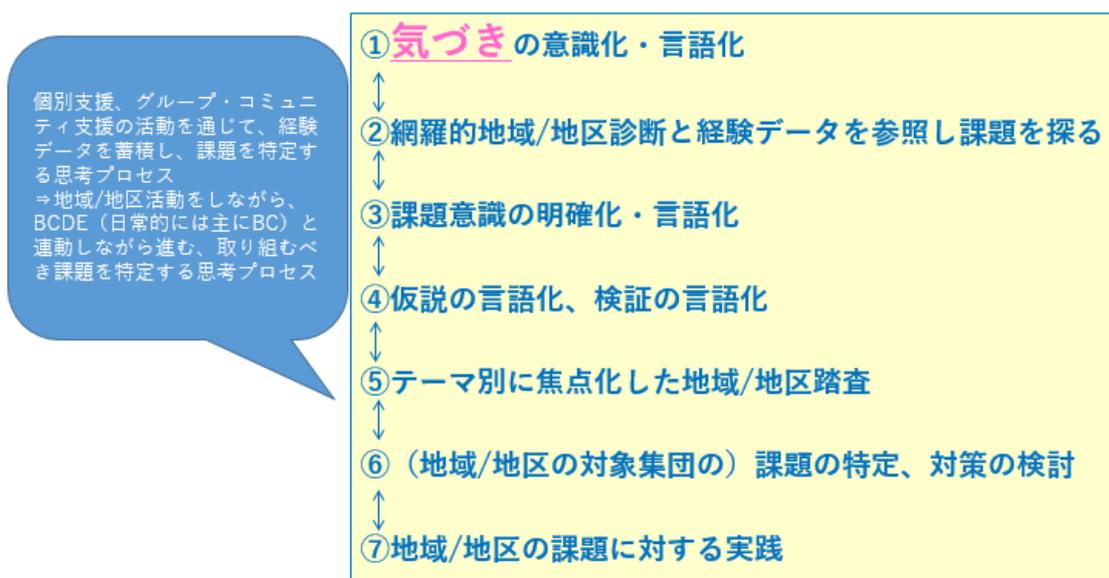
## 参考 「気づき」から始まる地域/地区診断

看護基礎教育で行っている網羅的な地域/地区診断をはじめ、地域/地区診断にはさまざまな形があります。保健師学生は、地域/地区に関する情報を網羅的に収集して、それらの情報から地域/地区の課題を考えていきます。ですが、現場の保健師は地域/地区活動の中で様々な「気づき」を得て、それに対して必要な情報を収集し、地域/地区の健康課題を考えていきます。この「気づき」は、それぞれの保健師の中で、意識的あるいは無意識的に行っています。「気づき」は過去の経験に基づく知識（経験知）や専門的な知識などが関係し、中には重要な情報が含まれている場合も多いのですが、なかなか他の人と共有したり、後任の保健師や新人保健師（後輩）に伝えるといったこともありません。地域/地区カルテ【フェースシート】は、そういった「気づき」や経験知を記載することができるようになっており、これを使うことで、日頃の地域/地区活動の「気づき」をもとに、地域/地区診断（地域/地区アセスメント）につなげていくことができます。では、保健師は地域/地区活動の中で「気づき」を得た時、そこからどのように地域/地区診断を行い、活動に結びつけているのでしょうか。

「気づき」から始まる地域/地区の課題を特定するプロセスには、①～⑦のプロセスがあります（参考-図 1）。このような、日々の地域活動からの「気づき」に焦点を当てた、地域/地区診断の方法を附録に載せましたので、ご参照ください。

### 「気づき」から始まる地域/地区の課題抽出 【焦点化地域/地区診断】

#### 課題特定プロセス①～⑦



参考-図 1

## コラム ワークショップを用いた健康まちづくりの一事例

### 簡単にできる「地域診断法」

住民参加で実施できる手法として開発されたのが、「地域診断法ワークショップ (WS)」です。

地域診断法 WS の原理はいたって簡単です。地域の情報を集めて、その「つながり」を考えることで地域の本質的な特性を見いだす形です。その実施にあたってのポイントは、住民に加え地域外の人を参加させること、2 段階の情報収集を行うこと、フィッシュボーン状につながりを整理し特性を見いだすこと、の 3 点です。何かしらのワークショップを開催した経験があれば、ガイドラインを用いて実施可能です。



ハンドブックのダウンロードはこちら  
<http://eco-minka.com/wp/h-rdws/>



### 健康まちづくりワークショップ

この地域診断法 WS に「健康」の側面をどのように融合できるのかを検討し、生まれたのが「健康まちづくりワークショップ」です。地域診断法 WS の要点である、エコロジカルプランニングの理念等を活かしつつ、参加した住民に健康への意識が生まれる工夫を盛り込みました。具体的には、描いたビジョンと地域資源から「まちづくりのアクション」を描く際に、自らの地域の健康特性や、健康増進、予防介護など情報を保健師から習得し、地域資源を活かしたアクションと自らの健康とのつながりを考える場面を加えました。さらに、アクションの実施状況をチェックする仕組みを導入しました。この仕組みを導入することで、住民は、まちづくりと健康を関連づけて意識することができるようになります。

The image shows an 'Action Sheet' for the Local Diagnosis Workshop. It is a worksheet with a header '地域診断法 WS アクションシート' and a sub-header '① 作成したビジョンを書きましよう'. Below this, there are several sections: '② 地域の特徴的資源' (Local characteristic resources), '③ 資源を利用したアクション' (Action using resources), and '④ 自分自身の心や体の健康のための行動' (Action for one's own mental and physical health). There are arrows indicating relationships between these sections. At the bottom, there is a section for '保健師さんからのアドバイス' (Advice from the health care worker) and a box for '記入者の年代 ( ) 性別 (男・女)' (Age and gender of the respondent). A vertical text on the right side reads '未来につながる楽しい活動心豊かな暮らし' (A happy and healthy life that connects to the future). At the bottom right, the number '16' is visible.

### 保健師のツールとして

この方法を用いて、保健師が参画するワークショップを開催しました。その結果、参画した保健師からは、地域の特性や住民の思いを知る方法として有用であることが、地域としては、まちづくり活動で住民が健康を意識するようになることが確認されました。保健師の地域介入のツールとして活用の可能性を示すことができました。一方で、実施するための課題としては、他部署との連携などの体制、保健師の経験や技量、まちづくりに対する住民意識の高さに左右されるとの指摘もありました。実際に想定される活用場面としては、保健師の地域への介入が行われているのであれ

ば、その活動のプラスアルファとして活用したり、他部署で地域活性化を模索しているようであれば、その切り口として合同で開催したりする方法が考えられると思います。

#### 地域診断法の参考文献

- 1) イアン・L・マクハーグ著 下河辺淳総括監訳 川瀬 篤美総括監訳(1994)「デザイン・ウィズ・ネーチャー」集文社
- 2) タイセイ総合研究所,細内信孝(2002)「テーマコミュニティの森～ヒューマンサイズの新しい都市」ぎょうせい
- 3) 近江環人地域再生学座編,鵜飼修責任編集(2012)「地域診断法 鳥の目, 虫の目, 科学の目」新評論
- 4) 鵜飼 修,小島なぎさ(2018)地域診断法を活用した健康まちづくりワークショップの開発,日本計画行政学会第42回全国大会研究報告要旨集,日本計画行政学会,pp.93-96
- 5) 鵜飼修(2019)地域診断法ワークショップを活用した健康まちづくりワークショップの開発,第7回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集,p.146

## 付 録

### 1. 気づきから始まる地域/地区診断の標準的なプロセス

地域/地区活動の中で起こる「気づき」を始点とし、地域/地区活動の思考をどのように展開していくかを説明する、「気づきから始まる地域/地区診断の標準的なプロセス」を作成しました。

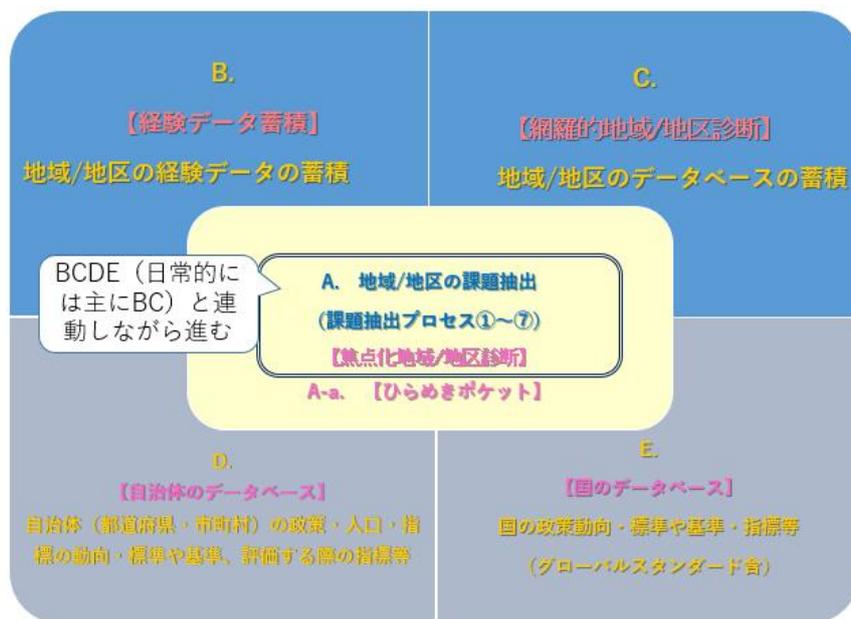
保健師は地域/地区活動の中で「気づき」を得た時、そこからどのように地域/地区診断を行い、活動に結びつけているのでしょうか。ここでは、日々の地域/地区活動からの「気づき」に焦点を当てた、地域/地区診断の方法を紹介します。

この、気づきから始まる地域/地区診断の標準的なプロセスを活用することにより、①気づきが起こったら、どのようなデータを参照して考えればよいか、②気づきが起こるためには、日頃からどのようなデータを蓄積しておく必要があるか、具体的に考えることができます。

#### (1) 「気づきから始まる地域/地区診断の標準的なプロセス」における6つの領域

地域特性に基づく保健師の活動における「気づき」から課題を抽出するプロセスは、A、A-a、B～Eの6つの領域で構成され、真ん中の「地域/地区の課題抽出」(A)と、日々気づいたことやひらめいたことを蓄積する「ひらめきポケット」(A-a)が中心となって展開されます。気づきやひらめきは、課題を抽出していくプロセスにおいて、継続して起こるものです。

下の図(付録-図1)は、A「地域/地区の課題抽出」において、課題を抽出するプロセス①～⑦(参考-図1)と平行してBCDEを行い、A-a「ひらめきポケット」の力を借りながら、地域/地区の課題を特定していくことを表しています。「地域/地区の課題抽出」と「ひらめきポケット」における思考は、常に周囲のBCDEと連動して進んでいきます。



付録-図 1

◆A. 地域/地区の課題抽出【焦点化地域/地区診断】

地域/地区の課題を抽出する思考プロセスの領域です。課題個別支援、グループ・コミュニティ支援の活動を通じて、経験から得られる情報・データを蓄積し、課題を特定する思考プロセスです（図2 課題特定のプロセス①～⑦参照）。地域/地区活動をしながら、BCDE（日常的には主にBC）と連動しながら進み、取り組むべき課題を特定していきます。

◆A-a. 【ひらめきポケット】

【ひらめきポケット】は【焦点化地域/地区診断】を手助けします。焦点化地域/地区診断のプロセスを進めるためには、日頃から「気づき」や「ひらめき」を蓄積しておく必要があります。ひらめきとは、鋭敏な頭の働きやすくれた思い付きや直感のことです（広辞苑より）。活動の中で、「あれ?」「おや?」「なんだか違う?」「これはもしかして?」「やはりそうか?」など、気がかりな事象、いつもと違うという感覚、役に立ちそうなもの・こと・ひとなどに出会ったら、その直感はこの思考プロセスを進めることに役立つ可能性を秘めています。そんなひらめきをそのままにせず、意識して蓄積しておくポケットの領域です。

◆B. 【経験データ蓄積】

保健師ならではの視点でこれまでに集めた情報を蓄積する領域です。地域/地区の活動における様々な経験から得た情報を、データとして蓄積しておくことも重要です。住民の暮らしにかかわる諸々にかかわりながら地域/地区の実情に触れ、そこから得られる情報があります。個別支援、グループ・コミュニティ支援の活動から感じたこと、考えたこと、捉えたこと（事象）を蓄積していきます。

◆C. 【網羅的地域/地区診断】

地域/地区のデータを蓄積しておく領域です。地域/地区の特性、出来事の変遷・予測（自然的、物理的、人為的、宗教的、文化的、等々）人口動態・健康指標の値及び経年変化などのデータを調べて、蓄積していきます。

◆D. 【自治体のデータベース】

自治体の政策・人口・指標の動向・標準や基準、評価指標となるデータを蓄積する領域です。保健統計のみならず、都道府県、および市町村の政策、経済産業、地勢、人口動態・健康指標の値及び経年変化・予測といった県勢や市勢などを調べて、蓄積していきます。

◆E. 【国のデータベース】

国の政策動向や標準、基準、指標や、世界の情勢やグローバルスタンダードとなるデータを蓄積する領域です。関連法規や国の保健医療福祉政策、人口動態・健康指標の値及び経年変化・予測などの統計データや国民衛生や医療、福祉に関連する各種白書等を調べて、蓄積していきます。

B～E の具体的な項目（例）

※すべてのデータを網羅的に参照するのではなく、課題特定プロセス（付録-図 1）の「ひらめき」や「気づき」（①）に關係するデータを参照する

<p>B. 地域/地区の経験データ</p>	<p>C. 地域/地区のデータ(網羅的地域/地区診断)</p>
<p>住民の意識、知識、認知          住民（当事者）のニーズ          住民のライフスタイル行動⇔地域/地区の文化と社会關係          相談件数・相談内容          相談・支援者の背景、特徴          支援内容及び支援結果          当事者の心理          これまでの保健活動からの気づきや学び          ※前任者・同僚の経験データも蓄積していく</p>	<p>■地域/地区の特性          地理的環境、居住環境（交通量、騒音、治安、公園・公共施設等の有無等）、交通網や利便性（移動手段）          郷土史、産業（生業）          文化と社会關係：価値観、近隣關係、人間關係          主要人的資源：民生委員、町内会役員、保健推進員等          主要組織資源：          サービス・支援の内容・量・場所・利用状況・認知度・情報提供方法          サービス・支援利用への意識・要望          住民組織の活動と連携状況：自治会、老人会、ボランティア活動組織、集いの場など          集える場（住民の活動拠点）と利用状況          主要健康関連資源（医療機関・施設、福祉機関・施設、行政機関・施設、その他）</p>
<p>D. 自治体のデータ</p>	<p>E. 国のデータ</p>
<p>■都道府県・市町村の政策          地域医療連携計画（医療計画）、地域福祉計画、介護保険事業計画、健康増進計画、高齢者保健・福祉計画、母子保健計画、自殺対策計画          ■地域/地区（広域）の特性（Cの広域版）          地理的環境、居住環境（交通量、騒音、治安、公園・公共施設等の有無等）、交通網や利便性（移動手段）          郷土史、産業（生業）          文化と社会關係：価値観、近隣關係、人間關係</p>	<p>■世界と国の情勢          世界人口（年齢構成別含む）          WHOの提言          グローバル・スタンダード（健康指標）          公衆衛生と関連トピック          危機管理上の課題やリスク要因・脅威          経済の動向および予測          気象および地殻の変動、自然災害のリスク          ■人口動態・健康指標の値及び経年変化・予測          総人口・性別人口・階級別人口・産業別人口          総世帯数・高齢者世帯数</p>

<p>係</p> <p>主要人的資源：民生委員、町内会役員、保健推進員等</p> <p>主要組織資源：</p> <p>サービス・支援の内容・量・場所・利用状況・認知度・情報提供方法</p> <p>サービス・支援利用への意識・要望</p> <p>住民組織の活動と連携状況：自治会、老人会、ボランティア活動組織、集いの場など</p> <p>集える場（住民の活動拠点）と利用状況</p> <p>主要健康関連資源（医療機関・施設、福祉機関・施設、行政機関・施設、その他）</p> <p>■人口動態・健康指標の値及び経年変化・予測</p> <p>都道府県・市町村レベル</p>	<p>独居高齢世帯数・高齢夫婦世帯数</p> <p>ひとり親世帯数</p> <p>生活保護世帯数（率）</p> <p>平均寿命、健康寿命</p> <p>合計特殊出生率、乳児死亡率</p> <p>死因別死亡状況、事故死の状況</p> <p>年齢調整死亡率、周産期死亡</p> <p>生活習慣病の受療状況</p> <p>生活習慣病健康診査結果、健康診査受診率</p> <p>認知症発症者数</p> <p>要介護度別認定者数</p> <p>在宅要介護者数、施設要介護者数</p> <p>介護保険利用者と認定区分別状況</p> <p>医療費、介護保険料</p> <p>身体障害者数、障害の程度別身体障害者数</p> <p>精神障がい者数及び入院形態別入院患者数</p> <p>児童虐待相談対応件数</p> <p>■法と国の保健医療福祉政策</p> <p>〈法律〉</p> <p>■保健事業とその実績</p> <p>■研究の動向（EBPHN）</p>
---	--

(2) A. 地域/地区の課題抽出【焦点化地域/地区診断】における課題特定プロセス

付録-図 1 の、課題を特定していくプロセスを進める上で有用な思考のポイントを示します。

①から⑦は、思考プロセスの標準的な方向性を示します。

①気づきの意識化・言語化

思考を深めるために、日頃の地域/地区活動で見聞きすることを次のように捉える。

- ◆ この現象は地域/地区の問題ではないのか（疑問）
- ◆ この問題は何かの現象のサインかもしれない（仮説）
- ◆ この地域/地区だけで起こっているのか（比較）
- ◆ この地域/地区ではこれまでに似たようなことはなかったか（想起）
- ◆ この地域/地区はこのままで大丈夫か（未来予測）
- ◆ この地域/地区のこれも資源ではないか（再発見）

②網羅的地域/地区診断と経験データを参照して課題を探る

周囲のドメインにあたりながら、さらに思考を分析的に深める。

- ◆ 同じような現象がこれまでにないか探る（探索）
- ◆ この地域/地区特有の現象なのか他の地域/地区と比較する（比較検討）
- ◆ 背景や根源は何か探る（因果推論）
- ◆ 将来何が問題になってくるか（将来において何が課題か）推測する（リスク検討）

### ③課題意識の明確化・言語化

「自分はこういうことが課題だと思っている」と課題意識を言葉し、続けて「自分はこういうことを明らかにしたいと思っている」と取り組むべき課題を表明する。

### ④仮説の言語化、検証の言語化

「地域/地区のこういう人たちがこのような共通課題を抱えているかもしれない」（仮説）から、「（ゆえに）何を明らかにすることでそれを検証する必要がある」（検証）と、仮説と検証をセットにして表現する。

### ⑤テーマ別に焦点化した地域/地区踏査

仮説を検証する上で不足している情報は何か考え、地域/地区へ出向いて参加観察やヒアリングなどから収集する。その際、既存の資料などにはない、新たな健康指標を設定したり、住民や関係者との対話を通じてデータをつくる作業も必要である。地域/地区踏査する時には、公平性の視点（倫理・社会的責務）、暮らしの視点（生活・文化）、強みの視点（資源・公共財／アセット）を意識する。

### ⑥（地域/地区の対象集団の）課題の特定、対策の検討

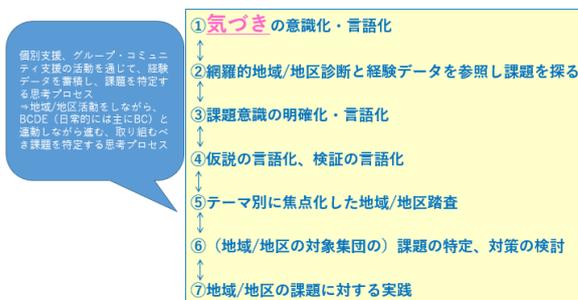
課題とは、保健師として取り組むべき地域/地区の問題である。問題はたくさんあるが、何に取り組むか見えてきた時には、それは課題となる。「この地域/地区では何に取り組む必要があるのか？」と考えながら、優先順位、緊急性も考慮して課題を特定する。その際、「課題解決の役に立つこの地域の資源は何か？」を考え、既存の保健事業の適応、事業化や施策化の必要性、組織的に取り組むために何をどうしたらよいか検討する。

### ⑦ 地域/地区の課題に対する実践

地域/地区活動を実践しながら、①～⑦を反復しましょう。この「気づきから始まる地域/地区診断の標準的なプロセス」を使って活動することで、顕在化された気づきが増えます。このような気づきが増えれば、地域/地区活動の展開が多岐に広がるでしょう。

「気づき」から始まる地域/地区の課題抽出 【焦点化地域/地区診断】

#### 課題特定プロセス①～⑦



## 2. 地域/地区カルテ

## 地域/地区カルテ

～地域/地区活動のために活用しよう～



## フェイスシート

地域/地区名：

担当保健師： \_\_\_\_\_

<地域/地区の目標/理念>

作成(更新)日： \_\_\_\_\_

### 1. 成り立ち

### 2. 地理的特徴

地図（面積      km<sup>2</sup>）資源マップ

産業

自然・地理・気候等

メモ

### 3. 住民の構成

人口構成	地域/地区	自治体
総人口	人	人
性別 男	人	人
女	人	人
年齢 年少	%	%
壮年	%	%
高齢者	%	%
75歳以上	%	%
外国人	人	人
世帯構成	地域/地区	自治体
総世帯数	世帯	世帯
高齢世帯	世帯	世帯
高齢独居	世帯	世帯
高齢夫婦	世帯	世帯
ひとり親家庭	世帯	世帯

参考資料：10年前の地域/地区

人口構成	地域/地区	自治体
総人口	人	人
性別 男/女	/	人
年齢3区分	/ /	%
総世帯数	世帯	

#### 4. 健康状態とくらし

地域/地区	自治体	参考資料：10年前の地域/地区
全体	例) 死亡数	健康
子育て	例) 出生数	死亡数 (率)
壮年期	例) 健診受診率	出生数 (率)
高齢者	例) 要介護者数	
くらし向き	例) 生保世帯数	

人々の暮らしに関して観察したこと・聞き取ったこと

#### 5. 文化と社会関係

地域/地区の特徴的な価値観:

近隣関係・人間関係:

その他(地域/地区における健康を増進する要因・阻害する要因等を含む):

メモ

文化と社会関係に関して観察したこと・聞き取ったこと

自由記載

日付

見直し・修正をした記録等

/  
/  
/  
/

**6. 地域/地区内の主要な人的・組織資源**

メモ

民生委員：  
キーパーソン 町内会役員：  
保健推進員：  
他

集える場：

機関・組織：

関連図等

地域/地区内の主要な人的・組織資源に関して観察したこと・聞き取ったこと

**7. 地域/地区の人が活用する主要な健康関連資源**

メモ

医療機関・施設

保健・福祉施設や  
機関

教育施設や機関

その他

**8. その他**

自由記載

日付

見直し・修正をした記録等

/

/

/

日々の記録：地域/地区に関する気づき・地域/地区の課題に対する実践

(日付)	#課題 番号	実施したこと	地域/地区に関する気づき・実践の結果

サマリーシート：地域/地区の強み・弱みの整理と地域/地区活動の実施

[            ]地域/地区 担当者[                            ]        年    月    日

地域/地区の目標・理念（フェイスシートより）	自治体の理念・将来像
	<p>（各自治体で掲げられているもの）</p>
要約（アセスメント）	地域/地区の人々が活用する健康関連資源や環境（フェイスシート・日々の記録から抽出）
<p>頻度の多い問題、類似性・関連性のある問題、重要な問題などをフェイスシートや日々の記録から抽出</p>	<p>地域/地区組織・関係機関・キーパーソン（相談できること・できないこと、人柄など）</p> <hr/> <p>人々の価値観・交流、集える場</p> <hr/> <p>地理的環境、交通の利便性</p> <hr/> <p>その他</p>
課題	課題の位置づけ： 国や自治体の政策・動向をみてみよう
	<p>各種計画、首長の施政方針、法的根拠、国の施策など（課題の重要度、優先度の判断や戦略に生かせる）</p>

短期目標			
一年後の地域/地区の人々の目指す姿			
今年度の計画			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標達成に向けた戦略</li> <li>・ 地域/地区の強みを生かした対策</li> <li>・ 健康課題への対応</li> </ul>			
評価指標、評価時期（地域/地区のレベル）			
	指標	評価日	結果
実施したこと			
改善したこと			
次年度の健康課題 1. 2. 3.			

### 3. 地域/地区カルテ活用マニュアル

**地域/地区カルテ**  
～地域/地区活動のために活用しよう～  
活用マニュアル

## 【地域/地区カルテ活用の目的】

日頃の活動の中に埋もれがちな気づきに意識を向け、それを言葉にしていくプロセスから、地域特性に応じた保健活動をつくりだすことです

### 〈このカルテを使用することの利点〉

- 系統的に地域/地区の情報を得て、早期に地域/地区全体の概要を捉えることができます
- 埋もれがちな気づきから課題を見出し、解決のためのプロセスを踏むことができます
- 地域/地区の実態・課題を把握し、その情報を住民、関係機関、自治体内で共有し、協働に役立てることが出来ます
- 地域/地区の情報を経年的に蓄積し、地域/地区の引継ぎ時等に活用することができます

## 【地域/地区活動カルテの構成】

3つのシートから成り立っています。

1. フェイスシート
2. 日々の記録
3. サマリーシート

## STEP 1 担当地域/地区の概要を知る（フェイスシート）

記入時期：使い始め

日々の記録（後出）を書きながら、情報追加の必要性を感じた時

- ① 8項目を眺めて地域/地区を振り返る。
- ② 書いてみようと思う項目を埋めてみる。
- ③ 項目を埋めながら思い浮かんだことを自由に「メモ」に書いてみる。

※ 単語だけ、箇条書きもOK

## フェイスシート

地域/地区名：

担当保健師： \_\_\_\_\_

<地域/地区の目標/理念>

作成(更新)日： \_\_\_\_\_

地域/地区の目標や理念は言葉になっていますか？

### 1. 成り立ち

地域/地区は歴史的にどのようにして発展し、今後どうなっていくのでしょうか。

### 2. 地理的特徴

地図 (面積 km<sup>2</sup>) 資源マップ

産業

自然・地理・気候等

- ・ 地理的、気候的に特筆すべきことはあるか
- ・ 自治体における地理的位置
- ・ 主要な施設、道路、交通関連などの状況はどうか

メモ

項目に関連して、「あ!」「お!」「ん?」「あれ?」を感じたこと、気づいたこと、思い浮かんだこと、考えたこと等、その都度なんでも自由に記載します。  
★単語・箇条書きでOK

- ・ どれくらいの人住んでいるのか
- ・ 地域/地区の人口はどのように変化しているのか
- ・ 地域/地区の世帯構成はどうなっているのか
- ・ リスクを抱える家族はどれくらいか

※分かるところを埋めてみる

### 3. 住民の構成

人口構成	地域/地区	自治体
総人口	人	人
性別	男	人
	女	人
年齢	年少	%
	壮年	%
	高齢者	%
	75歳以上	%
外国人	人	人
世帯構成	地域/地区	自治体
総世帯数	世帯	世帯
高齢世帯	世帯	世帯
高齢独居	世帯	世帯
高齢夫婦	世帯	世帯
ひとり親家庭	世帯	世帯

参考資料：10年前の地域/地区

人口構成	地域/地区	自治体
総人口	人	人
性別	男/女	人
年齢3区分	/ /	%
総世帯数	世帯	

#### 4. 健康状態とくらし

地域/地区	自治体	参考資料：10年前の地域/地区
全体	例) 死亡数	健康
子育て	例) 出生数	死亡数 (率)
壮年期	例) 健診受診率	出生数 (率)
高齢者	例) 要介護者数	
くらし向き	例) 生保世帯数	
人々の暮らしに関して観察したこと・聞き取ったこと		

- ・全体的な健康のレベルはどうか
  - ・子育てに関すること
  - ・壮年期の生活と健康に関すること
  - ・高齢者の生きがい、介護に関すること
  - ・人々の生活レベルの程度はどうか
- ※分かるところを埋めてみる

「観察したこと・聞き取ったこと」を自由に記載します。

#### 5. 文化と社会関係

地域/地区の特徴的な価値観:	<p>メモ</p> <p>項目に関連して、「あ!」「お!」「ん?」「あれ?」を感じたこと、気づいたこと、思い浮かんだこと、考えたこと等、その都度なんでも自由に記載します。 ★単語・箇条書きでOK</p>
近隣関係・人間関係:	
その他(地域/地区における健康を増進する要因・阻害する要因等を含む):	

- ・地域/地区の特徴的な価値観はあるのか
- ・地域/地区の人々の人間関係・近隣関係はどうか

項目に関連して、「あ!」「お!」「ん?」「あれ?」を感じたこと、気づいたこと、思い浮かんだこと、考えたこと等、その都度なんでも自由に記載します。  
★単語・箇条書きでOK

文化と社会関係に関して観察したこと・聞き取ったこと

「観察したこと・聞き取ったこと」を自由に記載します。

自由記載

日付

見直し・修正をした記録等

/  
/  
/

## 6. 地域/地区内の主要な人的・組織資源

キーパーソン	民生委員:
	町内会役員:
	保健推進員:
	他
集える場:	
機関・組織:	
関連図等	
地域/地区にとって大事な組織・機関・人物とのつながりが見える化	

メモ

項目に関連して、「あ!」「お!」「ん?」「あれ?」を感じたこと、気づいたこと、思い浮かんだこと、考えたこと等、その都度なんでも自由に記載します。  
★単語・箇条書きでOK

- ・地域/地区活動のためのキーパーソンは誰か
- ・地域/地区の人が集える場はどこか
- ・地域/地区活動のために挨拶しておくべき機関や組織は何か

地域/地区内の主要な人的・組織資源に関して観察したこと・聞き取ったこと

「観察したこと・聞き取ったこと」を自由に記載します。

## 7. 地域/地区の人が活用する主要な健康関連資源

医療機関・施設
保健・福祉施設や機関
教育施設や機関
その他

地域/地区の人が活用する主要な医療機関などは何か

メモ

項目に関連して、「あ!」「お!」「ん?」「あれ?」を感じたこと、気づいたこと、思い浮かんだこと、考えたこと等、その都度なんでも自由に記載します。  
★単語・箇条書きでOK

## 8. その他

地域/地区にとって重要と考えることは何か

自由記載

日付

見直し・修正をした記録等

/  
/  
/  
/

## STEP 2 毎日の活動の中での気づきを書く (日々の記録)

記入時期：随時

※できる範囲で

例えば ★ 1回2~3行

★ 毎回でなくてよい(一週間に2~3回)

★ 地域/地区活動した時に1つだけ など

- ① 気づいたこと(「あ!」「お!」「ん?」「あれ?」)をその都度書き留める。
- ② ①で重要だと思うことをその都度フェイスシートに追加する。
- ③ ①の気づきについて考えたことや行ったことを「→」で記入する。

日々の記録：地域/地区に関する気づき・地域/地区の課題に対する実践（記入例）

(日付)	#課題 番号	実施したこと	地域/地区に関する気づき・実践の結果
A月X日	(課題に挙げられている場合に記入)	家庭訪問	<p>地域/地区に関する気づき：〈家庭訪問〉を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを安心して遊ばせる場が見つからない(相談内容)</li> <li>・相談できるひとがない(相談内容)</li> <li>・新興住宅地で公園がない(訪問経路での情報収集)</li> <li>・家庭訪問の帰路の保育所での情報収集</li> </ul> <p>地域/地区情報の参照</p> <p>③考えたこと → <input type="checkbox"/>子育て相談の場は？  <input type="checkbox"/>近くの保育所で子育て相談を実施している</p> <p>③行ったこと → <input type="checkbox"/>相談件数・相談内容は？  <input type="checkbox"/>関連データ確認・フェイスシート追記</p>
A月Z日	(課題に挙げられている場合に記入)	地域/地区組織の支援	<p>地域/地区に関する気づき：〈地域/地区組織の支援〉を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の生活文化や価値観</li> <li>祭りが頻繁に開かれる。地域/地区の住民が楽しむだけでなく、地域/地区外から来る人々をもてなし、一緒に楽しむことを大切にしている。</li> <li>・地域/地区組織の特徴・強み</li> <li>住民の「地域/地区の住民」としての意識が強く、地域/地区としての活動が盛ん。</li> <li>・社会資源としてどのように活用できるか</li> <li>・地域/地区組織に必要な支援</li> </ul> <p>地域/地区情報の参照</p> <p>→ <input type="checkbox"/>関連データ確認・フェイスシート追記</p>
A月W日	(課題に挙げられている場合に記入)	あいさつ回り、担当者会議	<p>地域/地区に関する気づき：〈関係機関の挨拶回り〉を通して                      :〈連携会議、担当者会議〉を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内関係部署の状況</li> <li>地域/地区で保健師がコラボできそうな事業を計画中。</li> <li>・関係機関の状況</li> <li>地域/地区で住民と催しを共催し、キーパーソンとのつながりが強い。</li> <li>・ケアシステムの課題</li> <li>・会議資料や検討内容からの気づき</li> </ul> <p>地域/地区情報の参照</p> <p>→ <input type="checkbox"/>関連データ確認・フェイスシート追記  <input type="checkbox"/>住民の意識は？  <input type="checkbox"/>インタビューやアンケートの実施を計画</p>
B月Y日	課題番号 #1 #3 #5 (複数の課題も可)	(地域/地区組織)と活動内容を情報交換	<p>地域/地区に関する気づき：地域/地区組織との活動内容に関する情報交換と地域/地区の課題や将来像について話し合いを通して。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>子育て支援を活動内容としているが、担い手が不足しているか。</li> <li><input type="checkbox"/>地域/地区に活動の場を求めている高齢者もいるのではないか。</li> <li><input type="checkbox"/>活動を主体的にしたい人、交流のみを望んでいる人、など、それぞれのニーズにあった参加ができる場が必要。</li> <li><input type="checkbox"/>関連データ確認・フェイスシート追記</li> </ul>

気づきについて「考えたこと」「行ったこと」を「→」で記入する。

## STEP 3 地域/地区の強み・弱みの整理と地域/地区活動の実施 (サマリーシート)

### 記入時期

使用開始～1 か月後：地域/地区の目標・理念、要約（アセスメント）、課題、今年度の計画、  
評価指標、評価時期

使用開始～3 か月後：評価指標、評価の時期（地域/地区レベル）、次年度の健康課題（修正があれば）

使用開始～6 か月後：評価指標、評価の時期（地域/地区レベル）、次年度の健康課題（修正があれば）

まず3 か月を1クールとして一回実施し、6 か月後にもう一度見直す！

自治体の理念・将来像に照らして、地域/地区の目的・理念と結び付けて考える

- ① フェイスシートと日々の記録を見返し、地域/地区の課題、強み、弱みを整理する。
- ② 次年度の健康課題は、優先順位と実現可能性を考え、立ててみる。

サマリーシート：地域/地区の強み・弱みの整理と地域/地区活動の実施（記入例）

[                    ] 地域/地区 担当者 [                    ]                    年                    月                    日

地域/地区の目標・理念（フェイスシートより）	自治体の理念・将来像
<p>例：身近に生活する人々が暮らしと生きがいをともに創る</p>	<p>（各自治体で掲げられているもの）</p> <p>フェイスシートに記載した地域/地区の目標・理念を記載します。</p>
要約（アセスメント）	地域/地区の人々が活用する健康関連資源や環境（フェイスシート・日々の記録から抽出）
<p>頻度の多い問題、類似性・関連性のある問題、重要な問題などをフェイスシートや日々の記録から抽出</p> <p>フェイスシートと日々の記録を見返し、地域/地区の強み、弱みの視点から課題を整理し、記載します。</p> <p>フェイスシートと日々の記録を見返し、項目ごとに整理します。</p>	<p>地域/地区組織・関係機関・キーパーソン（相談できること・できないこと、人柄など）</p> <p>人々の価値観・交流、集える場</p> <p>地理的環境、交通の利便性</p> <p>その他</p>
課題	課題の位置づけ： 国や自治体の政策・動向をみてみよう
<p>例：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者が孤立している</li> <li>2. 高齢者が地域で生き生きと暮らしたい</li> <li>3. 育児不安をもつ母親が多い</li> <li>4. 親子が健やかに生き生きと暮らしたい</li> <li>5. 親亡き後に不安をもつ障がい者が多い</li> <li>6. 障がい者が社会に参加し生き生き暮らしたい</li> </ol>	<p>各種計画、首長の施政方針、法的根拠、国の施策など（課題の重要度、優先度の判断や戦略に生かせる）</p> <p>国や自治体の政策や動向に照らして書けそうなところを書いてみます。</p>

**短期目標**

一年後の地域/地区の人々の目指す姿 例：子ども、高齢者、障害者等だれもが集える場ができ人々がつながる

**今年度の計画**

- ・ 目標達成に向けた戦略
- ・ 地域/地区の強みを生かした対策
- ・ 健康課題への対応

短期目標を達成するための対応策  
地域/地区の強みを生かす視点を！

例：

- 1) (地域/地区組織)と活動内容を情報交換し、地域/地区の健康課題や将来像について話し合う。
- 2) (地域/地区組織)と共有した将来像の実現に向けて取り組めることを話し合う。
- 3) (関係機関)との情報交換を通して、地域/地区の健康課題や将来像について話し合う。
- 4) (関係機関)と共有した将来像の実現に向けて取り組めることを話し合う。
- 5) 1)～4)で関係づくりが進んだ(地域/地区組織)や(関係機関)等で顔を合わせ、協働した取り組みについて話し合う。
- 6) 協働した取り組みとして、(地域/地区組織)や(関係機関)と協働し(集える場)を活用した方法を相談する。
- 7) 上記の取り組みや地域の健康関連資源に関する情報を住民に普及する機会や方法を話し合う。
- 8) (地域/地区組織)や(関係機関)と協働して、企画した取り組みを普及する。

**評価指標、評価時期 (地域/地区のレベル)**

指標		評価日	結果
実施したこと	例： (地域/地区組織)と話し合う機会 (地域/地区組織)のキーパーソンの把握 (関係機関)と話し合う機会 (関係機関)のキーパーソンの把握 (地域/地区組織)や(関係機関)と集まって話し合う場の設定 (地域/地区組織)や(関係機関)との健康課題や将来像の共有 (地域/地区組織)や(関係機関)と協働した取り組みの話し合い (地域/地区組織)や(関係機関)と協働した取り組みの普及の種類・頻度		
改善したこと	例： 集う場の利用者数 集う場を利用した人々の変化 人々のネットワークの変化 (参加時の様子・アンケートやインタビュー等)  相談相手のいる高齢者の割合(市民調査の地域/地区別結果) 虐待高齢者把握件数(地域包括支援センター把握件数) 育児について相談できる人がいる割合(市民調査の地域/地区別結果) 育児不安を持つ母親の割合(市民調査の地域/地区別結果) 虐待相談件数(児童相談所、児童福祉課把握件数) 虐待対応ケースの数(保健師の業務報告) 活動の場をもつ障害者の割合(個別事例の件数、市民調査の地域/地区別結果)		

計画したことについて、年度内で実施したこと・改善したことを記載します。

**次年度の健康課題**

- 1.
- 2.
- 3.

次年度の健康課題は、優先順位と実現可能性を考え、立てていきます。

## Q&A

### 【全体】

Q：書くことが多すぎてまとまりません。

A：まずは、書けそうなところから書きましょう。箇条書きやメモで構いません。まとめることが目的ではありませんので、まずやってみましょう。

Q：大事だと思える情報はあるのですが、どの項目にあてはまるのかがわかりません。

A：自分で関連しそうだと思うところに記載してください。

Q：時期は指定された時期に必ず実施しなければいけませんか。

A：できるだけその時期を目安にしてください。変化のあった時期や年度の区切り等にも見直しをしてください。

### 【フェイスシート】

Q：メモはどんな風に使用しますか

A：どこに分類したらいいかわからない項目や、記入していて思いついたことなどを自由に記載してください。

### 【日々の記録】

Q：日々の記録はどんなタイミングで書いたらいいでしょうか。毎回書かなければいけませんか。

A：地域/地区に関する活動を行ったとき（電話・来所相談も含む）に記載してください。個別の住民支援や個々の地域/地区に関する活動から読み取れる地域/地区全体の課題に焦点をあてて記載してください。

Q：日々の記録に書く内容は、ケース記録とどう違いますか。

A：地域/地区に関する活動を行ったとき（電話・来所相談も含む）に記載してください。個別の住民支援や個々の地域/地区に関する活動から読み取れる地域/地区全体の課題に焦点をあてて記載してください。

Q：母子、成人、精神に関する内容は同じ項目に記載していいでしょうか。

A：地域/地区全体を把握することが目的ですので、まずは分けずに記載してください。

ご質問は、[chikukarute@slcn.ac.jp](mailto:chikukarute@slcn.ac.jp) までご連絡ください。

本ガイドラインは、平成 28 年度～30 年度厚生労働科学研究費補助金  
（健康安全・危機管理対策総合研究事業）を受け、実施した研究  
「地域特性に応じた保健活動推進ガイドラインの開発」の成果です。